

ニュースレター 10月

2025. 10. 1 発行



今月は、昔の家から長く暮らせる家の間取りを学ぶについてお届けします。



HPのお問合せはこちらから

住宅を建てるときに大いに頭を悩ますのが間取り。施主によって家族構成や希望が異なるものの、長く暮らせる家の間取りはどう考えたらいいのでしょうか？ その答えのヒントが過去の住宅にありました。

1、最適な間取りはずっと同じではない。変化する?!

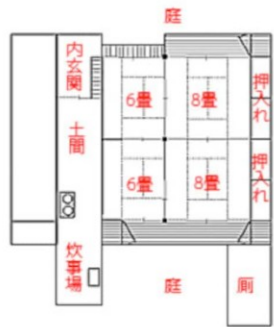


「御城番屋敷」の室内。約150年前に松坂城の警備を任務とする武士と、その家族の住まいとして建築されたものです

住宅を建てるときに、多くの人がこだわる間取りですが、家族構成やライフスタイル、趣味などによって、その家族に合った間取りが違います。さらに、これらの要素は、同じ人でも年齢によって変わっていくこともあるので、どの時点にも通用する「この家族にはこの間取りがベスト」という解答は、ないのです。

では、長期間にわたって、できるだけ柔軟に対応させるには、どのような間取りにしたらいいのでしょうか？ その答えのヒントは江戸時代に建てられた「御城番屋敷」(ごじょうばんやしき)にヒントがあります。

2、150年以上も使われてきた間取り



左が「御城番屋敷」の間取りです。昔の家によく見られる、いわゆる「田の字型」ですね。

「御城番屋敷」が建てられたのは1863年。古い家でありながら、長い間、複数の家族が生活してこられたのは、この間取りに優れた部分があったからでしょう。しかし、現代では「このままの間取りでは、現在の生活をするのはかなり難しい」と思われます。

3、ものが増えた現代。収納は適材適所に



「この間取りで生活するのは難しい」と感じたポイントは2つあります。ひとつは収納のつくり方、もうひとつはキッチンの配置です。

「御城番屋敷」の主な収納は押入れでした。100年以上前の生活に比べて、何かとものが増えた現在の暮らしでは、和室に確保された押入れだけでは収納量が少なすぎますし、奥行きが深すぎて、ものの出し入れがしにくいでしょう。

持ち物の量は人によって差があると思います。けれども、ネットや雑誌、テレビなどで収納がテーマとして頻繁に取り上げられていることを考えれば、収納に悩んでいる人は多いのではないのでしょうか。

「御城番屋敷」は常緑樹のマキの木が生け垣に使われていて、玄関は北側にあります

最近の住宅では、クロゼットやパントリー、シューズクローク、納戸など、押入れ以外の収納を適材適所、つまり、あると便利な場所に設けるのが一般的です。

4、オープンになってきたキッチン

「御城番屋敷」のキッチンは炊事場という雰囲気、設備機器の機能や形・デザインは現代の製品とは比べものになりません。**(断熱性も今の住宅とは全然違いますが、ここではあくまでも間取りに限定して、話を進めます)**

「御城番屋敷」のキッチン(炊事場)は、居室とは隔離され、独立した空間でした。近ごろ人気なのはアイランドキッチンやペニンシュラキッチンで、かなりオープンな設計が多くなっていますから、キッチンの配置は、今の家と大きく違うところです。

オープンなキッチンの利点は、家族と会話をしながら料理をしたり、また、複数の人が同時に作業できる点にあります。反対に「御城番屋敷」のような昔のキッチンは、リビングなどから離れた場所にあり、壁で仕切られているため作業に集中できる反面、調理をする人は孤独です。家族の気配を感じることも難しく、乳幼児がいる家庭では、子どもの世話と調理作業の両立が難しくなるでしょう。

その点、オープンなキッチンなら、気軽に声をかけられることで、夫や子どもも調理作業に参加しやすくなり、作業の軽減がはかれるでしょう。そして、何より、家族の気配を感じながら楽しく調理ができますね。

5、うまくミックスさせて暮らしやすい間取りにする



「御城番屋敷」の奥には前庭より広い庭が設けられています。建具を開け放つと、南北に風が通り抜けます

「田の字型」の間取りが長く使われてきた理由のひとつは、「柔軟性が高いこと」だと考えられます。襖や障子によって部屋と部屋が連続するため、必要に応じて部屋を広くしたり、小さくしたりと自在に使いこなせるのはとても便利です。部屋と部屋が壁で区切られた個室中心の間取りでは、難しいですね。さらに、部屋と部屋、あるいは、部屋と廊下をつなぐ襖や障子を開けると、実際の面積よりも広々と感じられるというメリットもあります。

また、家の前方と後方に設けられた2つの庭は、どの部屋にも通風と採光をもたらします。庭に面していない部屋でも、障子や襖を開け放つことで、風通しのよい部屋となり、庭の緑を楽しむことができるようになっているわけです。

このように、襖や障子の開閉で空間を可変させる手法は、日本家屋の大きな利点のひとつです。小さな部屋をいくつもつくって区切るのではなく、現代の住まいでも、引き戸や可動式収納などをうまく利用すれば、

可変性のある家になり、家族構成やライフスタイルが変化しても、対応できると思います。引き戸なら、各部屋の通風・採光も確保できるでしょう。

昔の家の間取りのよいところと、現代の住宅に必要なポイントをうまくミックスさせられれば、家族構成が変化しても柔軟に対応させることができ、長く暮らせる間取りができるのではないのでしょうか。

土
建
リフォーム

木
築

株式会社 渡辺組

本社 海津市海津町高須町720-1
0584-53-0174

E-mail: info@watanabegumi-kaizu.com
URL <http://www.watanabegumi-kaizu.com/>

*毎月皆様の暮らしのお役立ち情報をお届けしています。
何かお気付きの事や知りたい事などございましたらいつでもご連絡なくお申し付け下さい。
皆様のご意見ご感想を元にお役に立てれば幸いです。